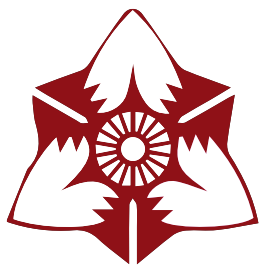


明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会

明鵬吟詠興隆会

会報第5号 2024年1月

特集: 明德義塾中学・高等学校創立50周年記念



第47回全国高等学校総合文化祭
2023 かがしま総文 SSプラザせんだい 令和5年7月31日開催

ご挨拶

鵬翔流吟友会流 会長 梶田鵬翔

2023年も、いよいよ残り少なくなって参りました。

昨年は、クリスマスに大雪が降り、朝起きるといつもの景色がすっかり変わって、一面白銀の美しい世界になって童心に返ったように感動したのを覚えています。

さて、今年的一大イベントと言え、何と云っても、11月4日に開催されました明德創立50周年記念のお祝いであります。この式典で全校生徒が詩吟を大合吟するという吉田塾長先生の企画でありました。練習中、時々心配そうにお顔を見せては、自ら叱咤激励されている塾長先生の熱い思いを感じて、私自身も励まされ、同時にそのご期待にお応え出来るようにという思いは次第に強くなっていきました。しかし、今まで沢山の全校生徒合吟の指導経験がありませんでしたので、不安に思うこともありました。が、「明德は本番に強い」と信じ、また、校長先生を初め、諸先生方のご協力も頂きまして、前日のリハーサルでは生徒達もそれに応えて朗々と立派に吟じてくれました。当日の本番では、海外からも沢山のご立派なご来賓の方々をお迎えして肅々と式典がとりおこなわれました。式典最後の合吟は、更に堂々とした生徒たちの清らかな吟声が満堂の体育館に大きく響きわたり、「感動しました」と言って頂いた時はホッと胸をなでおろしたことでした。

共に学ばせて頂き、このような機会を与えて頂きましたことに心から深く感謝申し上げます。創立50周年の節目を期して明德義塾高等学校中学校の更なるご隆盛ご発展をご祈念申し上げ、私の拙い漢詩を贈らせて頂きます。

賀明德義塾創立五十周年

梶田 鵬翔

下平聲七陽韻

偏尊禮節訓慈孝

承繼創基五十霜

雲集賀筵人傑下

正挑明德校旗颺

明德義塾創立五十周年を賀す

偏に礼節を尊び慈孝を訓き

創基を承継して五十霜

賀筵に雲集す人傑の下

正に明德を挑げて校旗颺る

2023 かごしま総文 SSプラザせんだい 報告

第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会は、鹿児島市内から1時間ほどの薩摩川内市の文化総合ホールで、7月31日に開催された。前日、分刻みの進行係の指示でリハーサルが行われた。大舞台であり、生徒達は、私語もなく緊張して、練習をしていた。大舞台では立ち位置が難しい。今回の参加の留学生生徒は9名であり、10分の持ち時間で、漢詩朗読、生け花、構成吟「和漢の春を詠む」を演じた。ナレーターの進行で、朗読は高啓「胡隠君を尋ねる」、合吟は杜牧「江南の春」と華道演技。最後の9名による歌謡吟詠「弘道館賛歌を吟じた。



いざ 出陣!! 梶田先生、黒竹先生、中西先生 光希先生と生徒達



合吟 「江南の春」吟詠



ナレーター : 黄昀曦 コウ インギ

華道: 王府興 オウ フキョウ

引率教員 詩吟班：黒竹俊介先生・花生け班：寄本光希先生の報告

今年の全国高校総文は、鹿児島県北部に位置する薩摩川内市で開催されました。甲冑の製造が盛んな地域で、大リーグの大谷翔平選手（エンジェルスからドジャースに移籍）がホームランを打ったあとにチームメートから被らせてもらう「あのカブト」を制作したことで有名になりました。

本校は、5回目の参加となる全国高校総文。昨年からは、吟詠と華道を合わせた華やかなステージに変化する「華道吟」に挑戦しました。日本一をかけて競う高校生のスポーツの祭典「インターハイ」に対して、文化系クラブには全国高校総合文化祭「総文」のステージがあることに私たち指導者には未知の大会でしたが、全国からは、吟詠とともに剣舞、詩舞を披露し合う、迫力のあるとても賑やかな大会でした。

留学生のみでの異国の場所移動には、時間の余裕が重要です。7月30日の午後からのリハーサルに間に合うように、地理感の乏しい私たち留学生チームは、チャーターバスを利用することにより、スムーズな移動が実現できました。

あっという間にリハーサルの時間は終了し、翌日の本番を残すのみとなりました。生徒たちの緊張も徐々に高まってくるなか、ある生徒が腰痛を発症しました。梶田先生のマッサージと、大会視察で滞在中であった校長先生が近くの薬局で湿布を用意し、どうにか最後までコンディションを維持することができました。

本番当日、24チーム中15番目の出場の私たちのチームは、日ごろの練習の成果を十分発揮できるよう、集合場所、更衣室、リハーサル室と、あらゆる会場とその周囲で、最後まで、入退場の練習と、音程の確認に梶田先生、中西先生、大野先生の三師匠の先生方に見守られながら、発表に挑むことができました。さらに、「全国花生けバトル選手権」予選会の参加のご縁依頼、地元土佐市にある金子生花店様に花生けをお習いすることができ、今回もフラワーパフォーマンスの成果を全国大会の舞台上で発表できる素晴らしい経験ができました。

ここまでの皆々様の温かいご支援のお陰で、有意義な留学体験につながっていますことに深く感謝を申し上げます。この文化の灯を絶やさぬよう、努力してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後の稽古

今年度は昨年の大会に参加した生徒が少なく、ほとんどの生徒は初めての大舞台出場であった。15分の持ち時間で舞台大きく見せるために、立ち位置・姿勢・目線・歩き方・答礼も重要な稽古である。

事務室のおられる寄本光希先生から、段々と生徒達の声が届くようになり、上達してきたことを感じ取れたという。



かごしま総文祭を終えて



金度 颯 キンドエイ (高3)

7月30日～7月31日2日間に、Nippon クラブの全員が鹿児島県に行き、詩吟の全国大会に参加しました。とてもおもしろく楽しい2日間でした。

7月30日朝、早い時間に空港に行って飛行機に乗って行きました。昼ぐらいで着きました。コンビニで食べ物を買って、バスを乗って詩吟の場所に行きました。詩吟大会の会場はとても大きいです。こちらに来て詩吟大会に参加する人も多いです。30日には会場に行って練習だけでした。

ステージにいる時、ちょっと緊張しました。だけど、30日は練習だけと思ったら、緊張感はなくなりました。

その後、私達はホテルに行って休みました。午後5時後、寄本先生と私達は、鹿児島県有名な黒豚肉のとんかつを食べました。おいしかったです。

31日に本番試合に行きました。午前中は、ほかの学校の試合を見ました。ほかの学校の生徒は本当に上手だと思いました。午後私達は、もう一回練習をし、すぐ試合に行きました。ステージにいる時は緊張しました、見る人も多いです。でも、一人だけで歌うわけじゃないから、緊張感はちょっとなくなりました。

歌う時、詩人がどのイメージでこの詩を作りましたかを考えながら歌いました。特に最後、弘道館賛歌を歌う時、多い梅を見られるように考えて歌いました。そのイメージを持って歌ったら、大きい声で歌うことができました。

その後、試合が終わって、みんな帰りました。この試合については、緊張の感じもあるし、楽しい感じもありました。初めて鹿児島県に行って、試合も参加し、楽しく遊ぶ、おいしい食べ物も食べました。試合に参加するのは、とてもいいことです。自信感も持つし、勇気も持ちます。賞をもらえなくても、みんなが、しっかり練習をして、試合に頑張って歌うのが大事です。



蘆 情涵 ロセイカン (高3)

私たちは、鹿児島の詩吟大会に参加しました。飛行機を降りて、久しぶりにバスに乗って会場に到着。試合会場に着いたとたん、私たちの周りにはたくさんの生徒がいて、一瞬ストレスと緊張を感じました。リハーサル室では、先生は私たちをリラックスさせて、トレーニングの最適な状態を出してくださいました。その後、私たちはリハーサルが終わってホテルで休み、その後先生は、私たちを鹿児島で有名な黒豚料理を食べに連れて

行ってくれました。

翌日、試合現場に来た。私たちの公演を始める前に、私たちは多くの学校の公演を見て、服装は、すべてとても美しいです。試合前、私の心の中には詩を詠むことを堅持し、自分の努力を無駄にしないこと、これから私たちは確かに前のリハーサルよりも良いレベルを発揮して、これはみんなの努力の結果で、今回の詩大会は私に多くのことを学ばせて、努力してこそ成功できることも知りました。



黄昀曦 コウ イング (高2)

今回の総文祭吟詠剣詩舞は初めて出場します！日本での高校生活で忘れられない経験になりました。長い時間一緒に練習し、本番はとても緊張しましたが、なんとか無事に終わることができました！本番前の参加生徒ミーティングでは、日本の高校生と一緒にゲームをしたり、式神の経験をたくさん交換しました。リハーサルでは、日本の高校生の素晴らしい演技をたくさん見ることができ、私たちはどの高校生からもたくさんの

ことを学び、来年の高校総合文化祭ではもっと頑張ろうと思いました！

私たちを励まし、力を与えてくださった先生方、本当にありがとうございました！

本当に感謝しています！来年はもっともっと頑張って、より良いパフォーマンスを期待しています！



王府興 オウ フキョウ (高2)

7月30日、長旅を経て鹿児島県に到着し、第47回全国高等学校総合文化祭のリハーサルに参加した私たちは、各地の優秀な高校生たちと出会い、急にストレスを感じました。こんなにたくさんの人の前で演技するのは初めてだったので、リハーサルもうまくいかず、仕方なくホテルに戻りました。夕食時には光希先生に連れて行っていただき、黒豚料理を食べたり、近くのショッピングモールを訪れたり、鹿児島の風習や風習を体験したり、

夕方には美しい火雲にも出会えて緊張も解けました。チームの中で花を生けることができるのは私だけだったので、ホテルで納得するまで何度も練習し、興奮して眠りに落ちました。翌日はホテルのビュッフェレストランで美味しい朝食をいただきました。服装や気分を整えて競技会場に到着すると、他のチームの衣装がとても綺麗で、ちょっと羨ましいと思い、着物を着て生け花や詩を披露したいと思いました。「たくさんの素晴らしい演奏を観た後、いよいよ私たちが演奏する番になりました。ステージに上がる前に、光希先生から「リラックスして、競技に200%の力を注ぐように」と言われました。期待通り、私たちはほぼ完璧に演技を終えることができ、とてもうれしかったです。ハッピー。総文祭に出場するにあたり、先生方は責任を持って、とても丁寧に指導していただきました。梶田先生、中西先生、大野先生、明德の先生方の私たちへのたゆまぬ努力の甲斐あって、満足のいく結果を得ることができ、努力が報われました！今回は鹿児島への旅行です。



劉予驤 リュウ ヨジョウ (高2)

今回の詩吟大会は私に大きな利益をもたらした。私たちは今回の試合のために数ヶ月間訓練した。この間、私は詩吟訓練で新しい友達を作り、日本の詩吟文化をもっと知りました。この機会に、私は鹿児島に来て、友達と短期旅行をする機会がありました。試合では、私たちは、明らかなミスはしませんでした。数ヶ月のすり合わせを経て、私たちのチームの人たちも、良い暗黙の了解と協力をしました。先生たちには、私たちにこのような独特な機会と体験を与え、そして私たちの詩吟に対する絶え

間ない誤り訂正と辛抱強い指導に感謝します。今回の経験は、私に深い感銘を与えました。私たちは、詩吟大会で緊張し、興奮し、失望し、先生とクラスメートから励ましを受けたことがあります。それが私にとって忘れられない理由です。それは私の記憶の中で黄金のように輝き、ダイヤモンドのように輝いています。



干浩洋 ウ コウヨウ (高2)

今回の詩吟大会は、私にとっても忘れられない思い出を残した。今回の詩吟大会のために、私たちは数ヶ月間練習した。この間、私は自分と友人の詩吟のレベルの向上を目指しました。最初は調整が見つからなかったが、徐々に良い境地に入りました。これは先生とクラスメートの間の激励が不可欠です。この間、みんな仲良く過ごし、詩吟の協力の暗黙の了解も徐々に向上しています

私はこのような感じをととても楽しんでます。私たちは大会でも良い成果を収めました。誰も明らかなミスはしませんでした。皆さんは公演が終わった後、ほっとして、歓声と笑いながら、この忘れられない経験を終わらせました。先生たちの指導にととても感謝し、私も皆さんの粘り強く、お互いに励まし合う精神に感心します。



楊哲昊 ヨウ テツコウ (高2)

おもしろかったし、たのしかった。とても緊張しました。それまでの練習は大変で疲れるものでした。でも最後まで頑張ったと思います。全国大会に出場することが出来て、ありがとうございました。



楊天燦 ヨウ テンシャク (高2)

今回の公演は本当に印象的でした。私たちは今回の詩吟文化祭を通して、いっそう団結しました。私たちが真剣に訓練をしました。先生たちもとても責任を持っています。私たちの公演はとてもうまくいきました。私たちはまた視野を広げて、先生は、私たちに地元の有名な美食を食べさせて下さり、にぎやかな街を見て、私たちはすべてとても楽しいです。このような公演はとても良くて、これは私たちの能力を鍛えて、非常に役に立つ体験です。今後の大学生活の中で、私たちはもっとこのような公演と試合に参加すべきです。



Kommun Sok (高2)

大阪を経由して遠くへの遠征はワクワクするものでおもしろかった。ステージでの発表はドキドキしたが、終わった時は、とてもかっこいいと感じることが出来ました。帰路も大阪を経由して買物も出来たことがもう一つうれしいことでした。私は留学生で、日本のいろんな場所に行ることがありません。ですから、とてもおもしろいかごしま総文の旅でした。ありがとうございました。

2023 かがしま総文

全国高等学校総合文化祭(略称:全国高総文祭)は、文化庁管轄で昭和52年から毎年、8月上旬に開催されている各都道府県代表高校生による芸術文化活動の文化の祭典である。主催県内の教育機関と生徒会が運営し、生徒が中心となって、多くの作業をするのが特徴である。

毎年8月初旬に19部門の舞台発表と展示発表の他に、開催県独自の協賛部門が5日間の日程で繰り広げられる。部門によってはコンクールが行われているものもあるが、体育系のインターハイと違って、交流を目的にしている。全国から参加した高校生を対象に交流会等が行われている。

開催地は、各都道府県持ち回りで行われ、全国から約2万人の高校生が集まり、会期中の観覧者は、開催地の一般市民も含め約10万人となり、高校文化系の最大の全国イベントである。この大会に参加すると、大学入試で、全国大会参加のポイントがつく。

運営に多くの経費が掛かるので、参加県が20県に減少すると、その部門は大会参加が認められなくなり、吟詠剣詩舞は、去年は21県で、切り捨ての議題が運営委員会で上がり、高知県から明德義塾高校(県内1校)の参加が、キーポイントになったと黒竹俊介先生から聞かされた。今回は関係者の努力で23県であった。しかし、高知県からは、4年間明德義塾高校の参加のみである。大きな課題を残している。



2023 かがしま総文、詩吟剣舞部のマスコット

明德義塾中学・高等学校創立50周年記念式典

・・・2023年11月3日 体育館にて開催・・・



式典 生徒代表謝辞



生徒合吟の先導者はマイクの前に立つ

創立50周年記念式典報告

師範 中西 淑子



左より大野、中西、梶田会長と先導生徒達

式典は、雲一つない日本晴れの下、本校体育館で、取り行われました。多くの国会議員、外国からの学校長や教育関係者が参集されて、来賓約100名、生徒は、当日高知県総合体育大会の参加者が多く、この式典に参加したのは、半分の400名ほどでした。

吟詠練習は、竜キャンパス食堂と本校体育館で、数回、練習が行われました。多勢で音声合わず、第3回練習から、野球部員5名と日本クラブ2名が、合吟先導者として選ばれました。先導者は、まだ自信がなく声は小さく、音程は不確か、揃う間がないと心配しつつ当日を迎えました

吉田圭一塾長先生の御挨拶で、「11名の先生と、一期生の92名で寮生活が始まりました。新入生徒を、山の中の寮において去った親の思いはどうか。最初の食事はカレーライスでしたが、スプーンが無くて箸で食べました」と言われた時には、先生は声を詰まらせました。塾長先生のお言葉に感動を覚えました。

生徒代表の挨拶は、合吟先導者の一人で、スポーツマンらしい口調で、式典の雰囲気が高揚してゆきました。フィナーレは一発勝負です。合吟先導は、岩見格、岩淵雅久、江口真朋、西出敏輔、浅田大君等、NIPPONクラブから、リュウヨジョウとウコウヨウ君等が行いました。彼らは練習の時の揃って大きな声が出ていた生徒達でした。顧問の先生が、「彼等は、一発勝負には強い」と、お話されていましたように、音程は揃い会場の生徒達を引っ張り、会場は、「桂林荘諸生に示す」の素晴らしい吟詠が響きわたり、参加者の皆様に、感動を与えたと思います。

合吟漢詩 桂林莊雜詠 諸生に示す (其の二)

廣瀬淡窓

桂林莊は、江戸時代に廣瀬淡窓を開いた塾名に由来します。桂林莊雜詠という句の第二首の中で、全国から集まり共同生活しながら、学ぶ塾生たちに向けた心構えが示された。

休道他郷多苦心	道 ^い う ^{こと} を ^や 休 ^め よ	他郷 ^{たきよう} 苦心 ^{くしん} 多 ^{おほ} しと
同胞有友自相親	同胞 ^{どうほうとも} 友 ^あ 有り	自 ^{みづか} ら ^{あいした} 相親 ^あ しむ
柴扉暁出霜如雪	柴扉 ^{さいひ} 暁 ^{あかつき} に出 ^い ずれば	霜 ^{しも} 雪 ^{ゆき} の如 ^{ごと} し
君汲川流我拾薪	君 ^{きみ} は ^{せんりゅう} 川流 ^く を汲 ^く め	我 ^{われ} は ^{たきぎ} 薪 ^{ひろ} を拾 ^{ひろ} わん

創立50周年を祝す

高知大学名誉教授 大野正夫



初代校長 吉田幸雄先生

私は、この式典にフィナーレの合吟の吟詠の指導に参加しました。

吉田圭一塾長先生の式辞を拝聴し、また、頂いた明德義塾50周年会誌を拝読して、故初代吉田幸雄先生を想い、吉田圭一塾長先生は、幸雄先生と共に明德中中学校の開学に、大変な苦勞されたことを知りました。ここまでの明德義塾の発展に対して、心からの祝辞を送ります。

私は1974年より3年間にわたって、一期生の明德中学の生徒が高校一年生になるまでの授業を受け持ちました。その頃は、まだ若く宇佐大橋を渡った所にある高知大学宇佐臨海実験所の助手をしておりました。

突然、吉田校長先生が来られて、「明德中学の先生が足りない。手伝ってほしい」と言われた。宇佐大橋が開通した年であり、定期的な授業もなく、週に2日、午前中の理科の授業を引き受けました。当時、「11人の侍」と

言われていた言葉を覚えています。若い先生達でほとんどは寮生とともに生活をしていました。一クラス30名であり、私語もなく、「可愛らしい」との思いが、最初の印象です。生徒の礼儀正しさにも感心した。夕礼に出てみないと言われて、数回、参加しました。今回の50周年記念吟詠の指導は、夕食後の夕礼の時間に行いました。進行は50年前の夕礼とほぼ同じでした。当時、壁に「勸学：少年老いやすく、学なりがたし」と張り紙があり、生徒が校長と詩吟を唱和して、夕礼が始まったと記憶しています。その後の吉田校長の講話が興味深く、夜道を通いました。このような記憶から、吉田圭一先生にお願いし、鵬翔流吟友会による明德義塾で詩吟の稽古が始まりました。途中で半年間の海外出張などがあり、授業の思い出は定かでないのですが、授業が空いている時に、よく校長先生と校舎の外の縁台に座って話し込みました。木造の建物の前に何も無い山腹を指して、吉田先生が、「この山は明德の土地だ。ここに校舎が立ち並ぶ」と言われました。卒業式に、当時大学を出て大相撲の入った「朝潮」が出席したことも記憶してあります。

中学生が進級し高等学校が開学した年だと思いますが、「明德の名前を世に出すのには、甲子園に出なければならぬ！」と、言われました。その時は、「それは難しいですね！」と、本心で返答しました。当時は高知商業、高知高校と強豪校がありました。

記念会誌のなかで書かれている「進学指導のプロ、「学習部」の名監督、井上正文先生は、高知大学の生物学科卒業で、出身の岡山県教員試験に落ちて、「1年就職浪人する」と私に話しました。

そこで吉田校長に、「1年間、面倒をみてください」と、一緒に御会いしました。数年後に宇佐郵便局で、たくさんの封筒をもっている彼に会いました。「今、学習部の面倒をみております。早稲田大に応募します」と笑っていました。彼に会うたびに、「まだ、結婚しないのか？」と尋ねていました。

明德義塾には、スポーツ部でも進学部でも、名監督が居るのですね。寄本浩宏明校長先生は、留学生の受け入れに尽力していることを知りました。黒竹俊介先生と寄本光希先生には、中国人留学生の詩吟指導のお世話をしていただいております。

国際化教育、留学生の指導は、武器なき“平和の楯づくり”だと思います。「三弓の訓」のように、3本を束ねれば折れません。明德義塾中学高等学校の発展を祈念します。

第46回高知県高等学校総合文化祭の参加

令和5年11月14日(火)～11月19日(日)

全国総合文化祭の高知県内版のイベントが、高知県総文祭であり、13部門ある。毎年、かるぽーとを主会場として11月中旬に行われてきた。

◆高校美術展 ◆高校書道展 ◆高校写真展 ◆高校漫画・イラスト展 ◆高校新聞展 ◆高校文芸会
◆郷土芸能大会 ◆舞踊合同発表会 ◆囲碁大会 ◆吹奏楽フェスティバル ◆茶会部門
◆演劇コンクール ◆軽音楽発表会

などがある。この大会で詩吟部は、郷土芸能大会部門に、3年前より参加してきた。従来、和太鼓が主流の部門であった。

今年度は11月18日に開催されたが、吟詠(明德のみ)、和太鼓と、ダンスに多くの高校から参加した。時代の流れであろう。

明德義塾の詩吟部も、華道との共演を昨年から行っている。

文化は刻々と変化しつつ発展する。



舞台が終わって安堵のチーズ

令和5年度第13回鵬翔流吟友会・風雅を楽しむ秋の集いの大会に参加

11月12日(日曜日)に高知市自由民権記念館で、秋の集いの会が開催された。生け花の創作披露と吟詠が平行して行われて。多くの参加者に感銘を与えた。



明德吟詠興隆会に寄せて

鵬翔流吟友会副会長 飯田 鵬祥

明德義塾高校の留学生NIPPONクラブ詩吟部の皆様との御縁を頂き、鵬翔流吟友会の春秋大会には、澆刺とした若い生徒の皆様のご出演によって、会場も一層活気が溢れ、一服の清涼剤であります。

杜甫、李白の詩にふれ、母国の偉大さを認識されていることでしょう。令和5年秋の大会では、8名の参加で、華道吟をテーマに王府興、範羽妍のお二人が花を生け、「胡隱君を尋ねて」を干浩洋、劉予驤のお二人の朗読、「江南の春」では、母国を偲び、広々とした江南地方ののどかな春を詠み、また江戸時代、文武両道を奨励した徳川景山の好文木「梅の花」を詠った「弘道館賛歌」を元気よく吟じました。

今後も後輩に繋げていただき、中国の漢詩を題材にした詩吟を、多くの生徒の皆様で楽しみ学んで頂けることは、とても意義深いことだと思います。お世話下さる先生がたにも感謝申し上げます。



明鵬吟詠興隆会・会報 第5号発行 2024年1月
明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会 明鵬吟詠興隆会
事務局：大野正夫 〒781-1164 土佐市宇佐町井尻226-2
Tel 090-7145-2456 Email: moseaweed@gmail.com